令和４年度　事業報告
デイサービスセンター彦岳の太陽

実施目標

１．利用者が「来てよかった」と思える、楽しく過ごせる通所介護を目指す
２．利用者一人ひとりに合わせた目標を設定し、その実現に向けての取組を行う
３．関係機関、事業所、家族等と密接な連携を図り、利用者と家族の在宅生活を支える
４．さまざまな状況の利用者を受け入れ、自立支援を図ることで、家族や居宅介護支援事業所の信頼を得る

実施状況に対する達成度と今後の課題

１．利用者が「来てよかった」と思える、楽しく過ごせる通所介護を目指す

介護保険の理念は自立支援であり、その能力に応じ自立した自立生活を営むことが出来るよう援助することが前提であるが、継続して利用してもらうための楽しみの部分についても考慮しながらサービスの提供を行ってきた。ほとんどが利用中止とならずに利用していただいた。今後も利用者への積極的な声掛けを行い、不安なく、安心して過ごしていただけるよう配慮しながらサービスを提供していきたい。

２．利用者一人ひとりに合わせた目標を設定し、その実現に向けての取組を行う

ケアマネジャーの作るケアプランを基に、本人および家族の意向を尊重した通所介護計画の作成を行った。また、計画についてはモニタリングを適宜行うことで無理のない効果的な計画作成を目指した。また、利用者が入院した場合には病院の地域連携室とも情報共有し、退院後スムーズに在宅生活の再開ができるように調整を行った。

３．関係機関、事業所、家族等と密接な連携を図り、利用者と家族の在宅生活を支える

利用者が在宅生活を継続していくために、利用時の状況や送迎時に得た家族からの情報等をケアマネジャーと共有し、必要に応じて対応を行ってきた。迅速に対応することで利用者の状態悪化を防止するよう努めてきた。また、介護上のアドバイス等を提供することで、利用者ができるだけ在宅生活を継続していけるように援助を行った。

４．さまざまな状況の利用者を受け入れ、自立支援を図ることで、家族や居宅介護支援事業所の信頼を得る

現在の利用者の状況を見ると、総合事業と介護の割合は１：２となっており、介護の割合が高い。要支援の軽度者から要介護５の重度者の方、認知症の方など幅広い状況の方が利用しており、通所介護計画により個々の利用者に応じた計画を立てている。また、関連病院の療法士と連携し個別機能訓練計画も、個々の能力に応じた計画を策している。今後も引き続き自立支援を目指していきたい。